

## 高知県教育委員会 会議録

平成26年度第5回教育委員協議会

場所：高知県庁 正庁ホール

### (1) 開会及び閉会に関する事項

開会 平成26年6月16日(月) 18:30

閉会 平成26年6月16日(月) 20:15

### (2) 出席委員及び欠席委員の氏名

出席委員	教育委員長	小島 一久
	委員	竹島 晶代
	委員	八田 章光
	委員	中橋 紅美
	委員(教育長)	田村 壮児
欠席委員	委員	久松 朋水

### (3) 高知県教育委員会会議規則第9条の規定によって出席した者の氏名

高知県教育委員会事務局	教育次長(総括)	勝賀瀬 淳
〃	教育次長	中山 雅需
〃	教育次長	永野 隆史
〃	教育政策課長	有澤 功
〃	高等学校課課長	藤中 雄輔
〃	高等学校課企画監	坂本 寿一
〃	教育政策課課長補佐	中平 貢正
〃	高等学校課課長補佐	高野 和幸
〃	高等学校課課長補佐	竹崎 実
〃	教育政策課チーフ	溝渕 松男(会議録作成)
〃	教育政策課主任指導主事	葛原 彩子(会議録作成)

### (4) 教育委員長の依頼により出席した者

高知県小中校長会代表(5名)

高知県小中学校PTA連合会代表(3名)

高知県高等学校PTA連合会代表(1名)

【冒頭】

委員長 教育委員協議会を開催する。

教育長 (あいさつ)

本日は今年度、第5回目の協議会となりますが、県立高等学校再編振興計画につきまして、ご意見を賜りますために、高知県小中学校長会、高知県小中学校PTA連合会、高知県高等学校PTA連合会を代表される皆様にご出席をいただいております。

皆様におかれましては、ご多用中のところ、ご出席いただき、まことにありがとうございます。

さて、県立高等学校の振興に向けた、学校の再編や統合という課題への対応につきましては、平成23年9月から県立高等学校再編振興検討委員会で協議をいたしまして、昨年2月に報告書としてとりまとめていただいております。昨年度は、その報告書を踏まえて、事務局において教育委員のご意見もいただきながら、具体的な県立高等学校の再編振興のあり方について検討を重ねて参りまして、12月からは公開の教育委員協議会で協議を行い、1月末に、再編振興計画の「たたき台」をお示したところです。

この「たたき台」につきましては、統合対象となる学校の関係者の皆様から、様々なご意見をいただいております。県教育委員会としては、改めて関係する学校の関係者や教育関係者の皆様からご意見をお伺いし、丁寧に議論を重ねていく必要があると考えまして、これまでに、統合対象の学校でございます、高知南中高等学校、高知西高等学校、須崎高等学校、須崎工業高等学校の関係者の皆様からご意見を伺ってまいりました。本日は、全県的な視点からのご意見を賜りたいと、皆様にご出席をお願いしたところでございます。

この後、再編振興計画の「たたき台」等につきまして、事務局からご説明をさせていただきますので、皆様の忌憚のないご意見をそれぞれ賜われれば幸いです。本日はよろしく申し上げます。

【協議 県立高等学校再編振興計画について（高等学校課）】

○高等学校課企画監 説明

○高知県小中学校長会代表との意見交換

小中学校長	会長である。
会代表	私の方から全体的な意見を述べたい。ただ、校長会の組織として考えをまとめたものではない。各支部、各会員から寄せられた意見の紹介になること、またある程度私見が入ることをお許しいただきたい。 まず、今回の再編振興計画の必要性については、今後、生徒数の大幅な減少が予想されるなかで、一定やむを得ないとの意見が大方である。しかし、対象となる地域や学校については、意見が分かれる。現在多数の生徒が在籍する県中

中央部の大規模校の統廃合は無理があるのではないかという意見がある一方で、中央部の大規模校に切り込んだ今回の案は、郡部の学校を存続させるうえで、評価できるという意見もある。特に、郡部においては、高校の統廃合が、小学校、中学校の統廃合にも一層の拍車をかけるものであり、また、学校がなくなることは地域そのものの存亡にかかわるものであって、関係者や地域住民の学校を残して欲しいという声には切実なものがある。生徒数の減少への対応策として、各学校の規模を一律に小さくするのではなく、県中央部に一定規模の学校を維持するという案は、生徒の幅広い選択肢を保障すること、全国的レベルでの競争力を保つことなどから十分に理解できる。そのためには、必然的にどこかの学校が統廃合されることになろうが、高知南中高校と高知西高校が対象となったことについては、グローバル人材の育成に双方の強みを活かせるメリットは考えられるが、高知南高校が最も新しい高校であり、国際理解教育や中高一貫教育の特色を打ち出した取組を行い、これからその成果が期待されるだけに、唐突感があり、高知南高校、中学校の設立時の見通しの甘さに疑問が残るという声も挙げられている。

須崎高校と須崎工業高校の統合については、今のところ特段意見は寄せられていないが、両校の生徒数の減少や津波への対策の問題からやむを得ないとの意見が多いのではないかと推察される。どの地域や学校が対象になろうとも、教育委員会には学校関係者や地元地域の理解を得る最大限の努力をお願いするとともに、その進め方にできる限りの丁寧さと慎重さを期待する。また、最も留意すべき点は、対象となる学校に通う生徒の思いや教育環境の保障であり、仮にこの案が実施されるとすると、高知南中高校は年ごとに生徒数が減少することになり、最後の中学校入学生は5年間次第に学校が寂しくなり、現在行われている様々な教育活動ができにくくなることから、特段の配慮が求められる。新しい学校に歴史は引き継がれても、母校がなくなることについては、生徒や卒業生にとっては極めて辛い出来事であり、そこに思いを寄せる対応も重要である。

次に、新しい高校に併設中学校ができることについて意見を申したい。高知南中高校の成果を引き継ぐうえでも、また県全体のバランスを図るうえでも県中央部での中高一貫教育校の設置を否定するものではないが、新たな地域に県立中学校が出来ることは、周辺の市立中学校への影響が懸念されるので、目的や特色等において市立中学校との住み分けがきちんと図られるべきであると考え。今回の案ではそのようなことにも配慮されていると思うが、一層その影響を少なくする努力をするとともに、関係者や学校や地域の理解を得られるよう丁寧な説明をしていくことが大切である。

最後に、再編振興計画そのものへの意見ではないが、今回の計画は今後生徒数減少が続くという見直しへの対策としてたてられているが、問題の根本的な解決が図られる訳ではない。このままの傾向が続けば、近い将来また新たな再編計画が必要となる。尾崎知事を先頭に県を上げて少子化対策に取り組んでいる

<p>小中学校長 会代表</p>	<p>ことは十分理解しているが、県教育委員会としても重ねて少子化対策への取組を充実、強化してもらいたい。やがて、その取組が功を奏し、再び生徒数が増加する青写真を描き、明るい見通しの基に計画を示せば、今回痛みを伴う方々にも一定の辛抱をお願いできるだろうし、多くの県民に希望と勇気を与えるものになろう。どうぞ、よろしくお願ひしたい。</p> <p>高知市内に進学拠点校が集中している。これにより高知市周辺部や郡部の中学校から高知市内高校に生徒が集中し、郡部の高校の維持に大きな影響がある。吾北分校周辺は子どもたちが少なくなっており、いの町と仁淀川町が共に意見を出しながら分校の維持について話し合いをしているところである。郡部の高校に進学しても高知市内の進学拠点校と同じ大学等の進学先が保障されるのであれば、地域の子どもたち、保護者の方々も安心して進学させることができる。そして大学に進学し、卒業後は地元に戻ってくるという展望が持てるのではないかと考えている。吾北分校はそのような取組を進めていると聞いている。市町村との連携はもちろん、県内大学との連携、県の強い指導が必要であるので、県立高校再編振興計画については県教育委員会だけでなく、県を上げて取り組んでもらえるようお願いしたい。</p>
<p>小中学校長 会代表</p>	<p>生徒の進路保障の観点からの意見である。数年前に高校入試における学区制が廃止となった。教員の間では、学区制の廃止だけでも高知県中央部の生徒には重荷になったとの声がある。東部、西部の生徒たちと競争して普通科高校に入学しなければならないということで重荷になった。さらに今度は、統合ということで、高知南高校の定員 240 名がなくなる。県中央部の生徒の進路保障は大丈夫かという素朴な不安が教員の中にある。この事は保護者にとっても同じことである。非常に不安があるので、不安を払拭するような情報提供をしてもらいたい。教員や保護者、PTA 連合会などに情報が提供できる状況になれば、できるだけ早く関係者に情報を提供してもらいたい。</p> <p>もう一つ単純な疑問である。資料 7 である。高知西高校と高知南中高校とが統合した場合であるが、資料の右のグローバル教育科であるが、下の方をみると併設中学校が平成 30 年度からできるわけであるが、新しい中学校は英語に特化した学校になるが、英語に特化した中学校を選択するのは小学生である。そのような進路選択を小学生ができるのか。今、その選択に対応できる、キャリア教育や進路指導が小学校で本当にできているのか。このような学校が県内に現在無いので、小学校段階での指導はそこまで行き届いていないと思う。もし、この案が具現化するようであれば、小学校でのキャリア教育について十分ご配慮を頂きたい。</p>
<p>小中学校長 会代表</p>	<p>丁寧な先を見通した説明だった。</p> <p>前任校が今年の 3 月末をもって閉校となった。地域の閉校式に参加したが、地域から学校がなくなるということは地域全体が寂れていく、非常に悲しい思いをするということを地域の方々から沢山聞いた。統廃合が進んでいく中で、対象となる学校の子どもたち、地域の方々、保護者の方々としつかりと話し合い、</p>

<p>小中学校長 会代表</p>	<p>計画を進めてもらいたいと思う。</p> <p>小学校における英語教育はこれからである。文部科学省の話でも、まず、指導者の育成から入っていかなければならないとのことである。外国語活動については数年前から導入されているが、実際のところ、教員がリードして外国語の授業、英語の授業をコンスタントにこなしていく力量までは高まっていないと思っている。国の指定や国の加配だけでなく、この様なグローバル教育に特化した学校づくりを進めるのであれば、県の方で、例えば、高校や中学校と小学校が連携し、地域連携を含めて、小学校の英語教育、英語指導力が高まるような取組を一緒に考えてもらえるとありがたい。</p>
<p>小中学校長 会代表</p>	<p>今回の案は、色々なメリットがあり、デメリットもある。高知南中高校の統合について保護者から聞いた意見であるが、新聞等での報道でもあったが、「なぜ南なのか」ということが最初に出てくる。歴史も30年程度で、これからの学校が「なぜ」なのかということである。私どもは、教員であり、流れはよく分かっており、今後の生徒数の減少を考えると致し方ないことであることと理解できる。しかし、保護者にとっては、「なぜなのか」がいつも付きまとう。素晴らしい校風があり、素晴らしい校歌もあり、伝統ができつつある。部活動も盛んであり、進学面もこれから注目されている人気校でもあるのに「なぜなのか」になる。案として出ているが、保護者の中では、これは議論を交わしても、もう決まったものであるとの思いを持っている方が大半である。このような会を通じて、今も説明をしていただいているが、保護者の方々に今以上に十二分に説明していただき、保護者、県民に納得していただけるように資料等を含めて示してもらいたいと思っている。</p> <p>もう一つ心配するのが、明らかに無くなっていく学校に生徒が集まるのかということである。今はまだ少し先のことであると一部の保護者、生徒は考えていると思うが、この案が実現したときに、高知南中高校は少ない人数で部活動ができるのか、学び合いができるのか心配である。慎重な審議をこれからもすると思うので、十分な説明、さらに納得がいくように進むことを願っている。</p>
<p>小中学校長 会代表  教育長</p>	<p>資料4にあるが、一律に学級数を減らすことには反対である。学校には活力、勢いが必要である。他県との競争する意味でも、高知市内の高校については、現在の学校規模を維持する方向で考えてもらいたい。</p> <p>色々考えていただき、関係者から話を聞いたうえでの意見だと思う。共通で言われたこととして、統合対象学校の関係者への配慮や、仮に統合する場合に、そこに残された生徒への色々な形での配慮が必要ということが多かったように感じている。一方で、統合の必要性については、異論もあると思うが一定の理解を頂いていると理解した。最初に申しあげた、統合対象となる関係者への丁寧な説明や協議については、今後もしっかりやっていきたい。統合を進めて行くことになった場合にはしっかりと対応していきたい。</p> <p>高知市内の学区制がなくなり高知市の中学生が高知市内高校への進学が厳しくなっているとの話があったが、今の時点でも高知市内校の定員については、</p>

事務局	<p>入学者数より定員数が多い状況である。今年は、高知追手前高校、高知小津高校も定員割れであり、中学校の進学担当の先生方との情報交換がもう少し必要であるのではないかと話している。現実には定員数については余裕がある状態であるので、そのような心配は我々としてはないと判断している。</p> <p>グローバル教育について、小学校での英語教育について心配があるとの意見を伺った。グローバル教育は、英語教育に特化したものではなく全人教育である。色々な課題解決型の学習を取り入れていきたい。今後、教育委員会内部でも小中学校課と高等学校課がしっかり連携して英語教育にも取り組んでいきたい。その一つの発信拠点として、現在3校ある県立中学校がしっかりした取組をし、他の地域の中学校あるいは小学校に還元していく形であるべきと考えている。このような新しい取組については、いろいろな成果もあれば課題もあるので、そこも含めしっかりと共有しながら、県全体のレベルを上げていく形につなげていきたいと考えている。いろいろと助言等を頂きたいのでよろしくお願いしたい。</p>
小中学校長 会代表	<p>今の話は、我々は理解できているが、保護者や子どもたちは、英語の学校ができると捉えている。国際理解であるとかグローバル人材育成はこのようなことであるなどをどんどん発信してもらいたい。</p>
委員長	<p>貴重な意見を頂いた。今後も慎重に検討を続けていきたい。</p>

○高知県小中学校PTA連合会代表との意見交換

小中P連 代表	<p>会長である。</p> <p>小中学校PTA連合会として意見をまとめてきている訳ではないので、個人的な考えを述べたい。統合案として上がっている高知南中高校、高知西高校、須崎高校、須崎工業高校においては、それぞれの学校でいろいろと話していることであろうと思うので、ただただ配慮をしていただきたいとお願いするだけである。</p> <p>心配していることは、10年後の統合となるので、小中学校の保護者にとって非常に心配や疑問があると思うことである。特に、須崎は地元の生徒が少ないと聞いている。現在の、小学校中学校の保護者へのアンケートなどを行って意見を取り入れてもらいたい。</p>
小中P連 代表	<p>学区制廃止により、高知市内校に生徒がどんどん受検してきている。大学受検のことを考え集まってくると思う。今後、小学校、中学校もそうであるが、地域の高校がなくなると地域にとってダメージが大きいと思う。これ以上高校を再編しなくても、どこの高校へ通学しても同じような進学ができるような教育を強化してもらえば、保護者としても遠くまで子どもを出さなくてもよく、家の近くの学校に通学させ、頑張ることができると思う。今回の統合は、生徒数減少でやむを得ないものであると思うが、今後も再編がでてくることもあろうと思うので、もし再編があるのであれば一定の規模の学校を残していくような取組をお願いしたい。</p>

	<p>再編と関係ないかもしれないが、寮をもっている高校は有り難く思う。子どもも規則正しい生活をしているので、安心して預けて学校へ通わすことができる。そのようなことも県中央部に生徒を通学させるためには必要でないかと思う。教育以外にも周りからサポートできることを教育委員会の方々に検討していただければと思う。再編と違う部分に話がずれたが、色々な角度から見てもらい、教育力が上がれば再編せずとも地元の学校に通学するようになると思うので、検討をお願いしたい。</p>
<p>小中P連 代表</p>	<p>中学校、高校になると高知県は他県と比べ私立学校が頑張っているのが現状である。公立学校にも頑張ってもらい魅力ある学校づくり、学力が付くような整備をお願いしたい。これから、新しい学校ができるのであれば、従来なら県が発表し「決定」であったが、今回は学校関係者や我々の意見を聞く場を設けていただいたので、色々な方の意見を取り入れていただき魅力ある学校づくりに努めていただきたいと思う。</p>
<p>教育長</p>	<p>小学校中学校の保護者の意見をとのことであったが、これは須崎高校の保護者からも同じ意見をいただいているので、我々としても考えているところである。中山間地域の学校の存続については、今回はそのような観点で全国的にみても思い切った判断で、1学年1学級でも高校を存続させていくことの方針を示させてもらっている。ご意見いただいた考え方には沿える形ではないかと思う。寮を含めた周辺環境の整備については、費用を伴うことであるので、ご希望通りに応えることにはならないだろうが、例えば、高知西高校に中高一貫中学校ができた場合、中学校の生徒に対する寮をとの話が高知西高校の関係者からも頂いているので、計画が決定した際には検討していきたいと思っている。また、丁寧な議論をしていくべきでとの意見にはしっかりとしていきたい。貴重な意見を頂いた。今日の意見についてはこの後の検討の参考にさせて頂く。ありがとうございました。</p>
<p>委員長</p>	

○高知県高等学校PTA連合会代表との意見交換

<p>高P連代表</p>	<p>会長である。</p> <p>今回は、それぞれの学校に対しての統合案について、直接的に反対や賛成というようなことではなく、全体的な高知県の状況を客観的に見て意見を言わせてもらいたい。私自身の出身小学校が廃校となっているので、廃校になった学校の卒業生や、その地域に住んでいる者にとって、廃校というものがどれだけ地域に大きなダメージを与え、子どもの声が聞こえなくなることが非常に寂しいものであるかを実感している。本来なら廃校については、したくないものであるが、高知県の事情をみると子どもが減っているなかで学校を減らさなくてはならないことは県民全体が分かっている。何とか納得できる案を考えてお互いに理解できる解決策があればと思っている。</p> <p>統合対象の各学校の保護者、地域に十分な説明をしていただきたい。納得して再編しないとしこりも残るので、十分な説明を今後ともしてもらいたい。</p>
--------------	---

高知南中高校、高知西高校、須崎高校・須崎工業について、3つの点で意見を述べたい。

高知南高校ができたのは約30年前であり、その当時高知県は90万人県民構想を掲げて、高知南高校、岡豊高校と新高校を次々とつくったが、たった30年で廃校とは、高知県は見通しが無いような施策をしていると思う。学校に関わらず、たった30年で見直しをしなければならない施策は検討不足であるのではないかと思う。今後、色々なことが出てくるだろうが、50年、100年先を見据えた検討をしていくことが必要である。30年前に高知南高校をつくり、そして中高一貫校として中学校をつくったが、その成果はどうなっているのか、私の知る限り成果の報告がないのではないかと思う。メリット、デメリットがあったと思う。あの地域に高知南高校をつくったことによるメリット、デメリットがあろうと思うがその報告がない。また、高知南中高校に中高一貫校をつくって、どのような検証があったのか。これもメリット、デメリットあると思うが、その報告がなされていない。この状態で高知西高校に中高一貫校をつくっても同じことの繰り返しになるのではないかと思う。検証が十分され、それを踏まえ中学校から一貫して教育をしていくべきではないかという前提がなければ、また何年か先に考え方が変わるかもしれない。十分な検証をしてもらいたい。また結果を我々にも示して欲しい。

資料の中にグローバル教育の推進についてとあるが、今でも高知西高校ではグローバル教育をしていると思うが、今行っているグローバル教育の結果について検証が必要である。本当に高知西高校で良いのか。英語科があるから高知西高校を統合先に選定したという安易な考え方で進め、グローバル教育を行ったが、結局高知ではうまく行かなかった、指導できる教員がいなかったでは困る。そのようなことも検証が必要である。教育委員協議会の中で、スーパーグローバルハイスクールの指定や国際バカロレアの認定を取ることであるが、本当に高知県でできるのか。教員のスキルアップがかなり必要となるので、その辺の検討を十分してもらいたい。資料の中では、国際バカロレアを取り入れた取組内容とあるが、認定校を目指す取組だけを取り入れるのか、中途半端な表現である。認定校を目指すとか、もう少し強い意志を示して欲しい。今年4月にスーパーグローバルハイスクールの指定を受けるための申請をするとの話があったが、申請して結果はどのようになったか教えてもらいたい。

須崎高校と須崎工業高校のことである。資料には地域性のある学校は残すということであるが、両校に地域性がないのか。両校とも地域性があると思うので、両校とも残しても良いのではないか。須崎高校、須崎工業が再編の候補にあがったのは、平成23年の東日本大震災をうけて急遽方向転換となったものではないか。それであれば、安芸高校、宿毛高校も同じではないか。地域性をもった海岸線の学校があるが、震災を考えると移転も考えなければならないと思う。子どもの安全を守ることは、再編の中の議論とは別になるかもしれないが、県全体で考えなければならないことである。以上3点それぞれについて説明を



<p>教育長</p>	<p>お願いしたい。</p> <p>できるだけ関係者の納得をとすることは、努力していく。30年前の90万人構想時の見通しが甘かったのではないのかとのことについては、そのような批判があろうかと思う。一方で、現実の問題として高等学校への進学者が急増しており高知南高校、岡豊高校のような大きな学校をつくらないと、高等学校へ進学したいという生徒を受け入れることができなかったというやむを得ない事情があった。仮に、将来生徒数が減ると分かっている、その時点では当面の対応として新しい高校をつくらなければならなかったと考えている。どのような形でつくるかは別にしても、一定の規模の学校をつくることはやむを得ない選択ではなかったかと思う。その後、急激に生徒数の減少が続いてきたことで、新たにその対応が必要となってきた。</p> <p>個別の高知南高校での成果や中高一貫校の成果については、後ほど説明させてもらう。</p> <p>グローバル教育に関して、スーパーグローバルハイスクールの指定については、申請はしたが指定は取れていない。今後、チャンスがあれば再度トライしたいと思う。現時点では取れていない。ただ、国際バカロレアに基づく新たなグローバル教育については、スーパーグローバルハイスクールの指定があれば国の財政的な支援を含め、教育を進めやすいことは事実である。しかし、県独自でそのようなことを目指し、話にあった教員の資質の向上も含めて取り組むことも可能である。スーパーグローバルハイスクールの指定に向けてチャレンジしていくが、仮にそれが叶わない場合にも、国際バカロレアに基づいた教育を進めていきたいと考えている。なぜ国際バカロレアなのかは冒頭で説明してもらったが、単に英語教育、英語運用能力ではなく、これから新しい時代に求められる課題解決能力、答えのない課題にチャレンジしていく能力、これまでは欧米追随型でただ追い付いていくだけの教育であったが、これからは手本になるものがない中で、新しい形で切り拓いていくためには英語運用能力はもちろんであるが、自ら課題を解決していく能力、異文化の人々と十分コミュニケーションをとっていけることが必要である。そのような能力を育成していく実績のある教育カリキュラムを持つ国際バカロレアにチャレンジしていきたい。そのような教育を取り入れていきたいという考え方である。</p> <p>須崎高校、須崎工業高校は地域性がないのかという質問であったが、地域性ということで説明させてもらったのは中山間地域のことである。須崎高校、須崎工業高校の統合については、高幡地域、高吾北地域の拠点的な学校という位置づけで考えている。地域の拠点校として考えている。震災津波への対応の点であるが、須崎高校は浸水が予想されているが、現時点では命を守る防災教育や防災対策は手を尽くしている。しかし、できるだけリスクは少なくするという考え方のもとでの統合であるので理解を頂きたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>津波対策について資料3で示した学校、安芸高校、高知南高校、須崎高校、宿毛高校、清水高校については、津波対策として今回は全てを移転すると考えて</p>

事務局	<p>いないが、今後考えていくこともある対象校となっている。</p> <p>中高一貫校の成果であるが、前段の説明であったが、県立高等学校再編振興検討委員会の中で各校どのような成果と課題があるかを検証してきた。その中で、中高一貫教育校については平成14年に立ち上げにあたって検討会を開いたが、その中では、市町村立中学校、私立中学校、そして第3の選択肢としての県立中学校ができることにより、小学6年生が一つの選択肢として進路希望の幅が広がるということも一つのテーマであった。また、中学校3年間と高校3年間の間には高校入試があるが、中高一貫校にはそれがなく6年間の一貫した教育が可能で計画的に中学、高校のメリットを生かしていくことができる。そして、受検エリート校ではなく入学した生徒を6年間でしっかりと指導して行くことを一つの柱として、東部、中部、西部の安芸高校、高知南高校、中村高校に県立中学校をつくり、そのなかで6年間を見据えた一貫教育をおこなってきた。6年間見通した教育で検証されたことは、これから伸びていく発達段階の中学生と将来を見据えた高校生とが縦の異年齢の生徒の集まりとして互いに感化していくこと、また、部活動指導面で、先輩の動きを見ながら中学生が参考にしていく面が多くでてきているということなどである。実際に高知南中高校でも中学校で育て、高校で花を咲かせるというような6年間での実績を上げている。そして、やはりキャリア教育である。高知南中高校は国際理解教育やキャリア教育に取り組んでおり、キャリア教育は中高一貫校の6年間というのが一番学べる場である。中学1年生から高校3年生までに順番に社会で自立していくために身に付ける力を学び、計画的に6年間に取り組むことによりその成果を順次上げている。県内において、高知南中高校はキャリア教育のけん引役の立場で頑張ってもらっている。6年間のゆとりを活かし、成果は大きく出ている。また、県立3校が併設中学校をつくる前の大学進学状況と設置後の状況を比べると、6年間で育ててきた生徒の方が進学についても一定の成果が出ている。トータルとして中高一貫教育校を導入して取り組んできたことの成果は大きくできていると受けとめている。一方、中学校から高校への入試がないということで、中学3年生あたりでの中だるみがありモチベーションが低下する傾向があると各校から声があがっている。もっと中学校から高校へ上がるにあたってのモチベーションを上げる取組をしていかなければならないという課題も出ている。そのような意味で、さらなる中高6年間の教育カリキュラムの改善も必要であると、成果だけでなく課題として検証されている。そのようなことを踏まえながら、検討委員会の報告書では今後も東部、中部、西部に各1校配置される必要があると報告されている状況である。</p>
事務局	<p>高知西高校の英語教育についての検証ということでの質問であったが、高知西高校では、今から10年前になるが文部科学省の方からセルハイという英語教育についての国の指定を受け、3年間の研究成果がある。英語の指導力についても全国でも先を行くような取組をしている。様々な取組をしており、例えば英語科については英検2級を全員が取得して卒業している。英語の運用スキル</p>

	<p>を伸ばしていくという面では高い成果がっていると検証している。そのような英語力を活用した進路決定、高知西高校の場合には大学進学が主になるが、そのようなところでも、近年は100名近い生徒が現役で国公立大学に進学できるようになっている。英語科の取組を普通科に活かして進学の実績も上げることができている。国際理解という面では、いろいろな文化比較論をしっかりと勉強した後で、ディベートや英語によるスピーチなどを行い、高い評価を得ている。しかし、今、国はさらにしっかりと英語というコミュニケーションツールを使い、国内外で活躍できるグローバル人材の育成を提唱しているので、さらに英語の指導力をグレードアップしていく意味で、国際バカロレア導入を進めて行きたいと考えている。スーパーグローバルハイスクールについては、高知西高校においても課題解決型学習を取り組み始めたばかりであるので、国の方から十分評価を得られず、指定を受けられなかったが、課題解決型の学習を今後確実に進めていくことで、しっかりした人材育成につながっていくものと検証している。</p>
高P連代表	<p>須崎高校と須崎工業高校が地域の拠点校ということであれば、安芸高校と安芸桜ヶ丘高校はなぜ統合をしないのか。</p> <p>言葉尻を捉えて申し訳ないが、教育長の発言の中でスーパーグローバルハイスクールや国際バカロレアの指定等について「チャンスがあればチャレンジしたい」では少し弱気ではないか。せっかく高知西高校にグローバル教育を取り入れた中高一貫教育校にするのであれば、もう少し強い意志を示してもらわないと、高知南高校の関係者や地域の方は納得がいけないのではないかと。高知西高校が成功すれば、高知西高校に統合して良かったとの考えになると思う。今の考えでは33年に統合であるが、もう時間がない。いつまでに目指してチャレンジするのかの目標を立てないと結果が付いてこない。当然、教員のスキルアップも必要となる。今の状態では無理である。この2～3年で確実にスキルアップしないといけない。今の時点で具体的な考えがないと、取りあえずやってみようではいけないし、県民に対し失礼になる。言葉的には上手く説明しているが、言葉ばかりが先走りして内容がついてきていない。統合することをここで決めれば、後はなんとかなるとの甘い考えが見える。もう少し具体的に期日を切り、ここまでに認定校になるとか、認定校になれば次はどうか、教員の育成をどうするかを示さなければならないと思う。</p>
教育長	<p>「チャンスがあればチャレンジしたい」は弱気ではないかとのことであったが、決して弱気ではない。チャンスがあればという意味は、次に国が募集する機会を捉えてという意味である。国の募集に対して応募するとの意味であり、応募するチャンスがあればという意味であるので言葉が十分伝わらなかった面がある。スーパーグローバルハイスクールについては国が指定するものであり、我々としても頑張るが100%保障はされていない。ただ国際バカロレアに基づく教育は、この案が認められれば、そのような形でやっていきたい。スーパーグローバルハイスクールの指定に関わらず、県としてきちっとやっていき</p>

	<p>たいということで具体的なスケジュールはすでに示している。そこは我々としても強い思いで取り組んでいるということで理解いただきたい。</p> <p>須崎高校と須崎工業高校とを統合して地域の拠点であれば、安芸高校と安芸桜ヶ丘高校についてはどうかということであったが、今示している案は再編計画の前期計画であるということで話をさせてもらっている。特に、環境として急ぐ所について具体的な話をしているので、今後、後期計画の中で色々検討されることもある。具体名についてはこの場では言えないが、これからの話として検討される必要があることである。</p>
高P連代表	<p>地域の方々や保護者に説明するとのことであるが、そうすると小学生や中学生の保護者もその場で聞くことになる。スーパーグローバルハイスクールや国際バカロレアについては普通に聞いては分からないものである。世界が認めた学校であるなどの説明を十分する必要がある。失礼な話になるが、もう少し素人向けの説明も必要である。難しい言葉を並べるだけが説明ではない。小学生が受検するので小学生とその保護者がこの様な学校であると納得して入学しないと、中途退学者が増えるだけになる。具体的に英語だけでなくグローバル教育やキャリア教育をするなど、もっと保護者に分かりやすい資料や説明が必要である。資料が文字ばかりで、資料を見慣れた人でないと分からない。高知南高校の保護者にこの様な資料を見せても、高知南高校がなくなるとしかイメージを持たない。高知南高校がなくなるのではなく、高知西高校と統合してより良い学校になる。学校としては少し離れるが高知南高校は絶対になくなる。その想いは高知西高校に引き継がれていくという説明をして納得してもらわないといけない。後に統合して良かったなと思ってもらいたい。また、この資料は見る人が見ると分かりやすいと思うが、もう少し柔らかい表現をお願いしたい。</p>
委員長	<p>できるだけ分かりやすい文章、資料づくりに努力していきたい。高知県小中校長会、高知県小中学校PTA連合会、高知県高等学校PTA連合会の皆さんお忙しい中、今日はありがとうございました。子どもたちの将来を考えながら色々な方の意見を聞きながらできるだけ良いものができるように努力して行くので、今後ともご協力よろしくお願ひしたい。</p>